令和８年度　第３回多摩区支え合いのまちづくり推進会議　会議録

会議の概要

開催日時		令和８年９月３０日（水）13 時 30 分から 15 時 00 分まで	
開催場所		多摩区役所６階　６０１会議室	
出席者の氏名	委　員	浅谷裕子（多摩区民生委員児童委員協議会） 大澤敏夫（川崎市多摩区社会福祉協議会） 和秀俊（田園調布学園大学） 川村由布子（多摩区地域自立支援協議会） 櫛笥永晴（多摩区医師会）	小山富士子（多摩区子ども会連合会） 坂本顕隆（多摩区町会連合会） 島峯諭（多摩区商店街連合会） 永井浩之（登戸地域包括支援センター） 眞壁総子（多摩区こども総合支援連携会議）
	多摩区地域包括ケアシステム推進本部幹事会・多摩区支え合いのまちづくり推進会議　事務局	佐藤直樹（多摩区長） 板尾康章（生涯学習支援担当課長） 大磯慶記（総務課長） 佐藤直子（企画課長） 柏原美由紀（地域振興課長） 上野進（生田出張所長） 大津美和（区民課長） 田村裕（保険年金課長） 土岐岳子（地域みまもり支援センター担当課長） 中山礼子（児童家庭課長） 正木久美子（高齢・障害課長） 鈴木香奈子（衛生課長） 瀧澤祐子（保育所等・地域連携担当課長） 南奈保美（学校・地域連携担当課長） 石垣秀之（道路公園センター管理担当課長）	北川直子（地域みまもり支援センター所長） 浅見政俊（地域みまもり支援センター副所長） 出路幸夫（地域支援課長） 梶野香与子（地域支援課地域サポート係長） 河井真弓（地域支援課地区支援第１係長） 林史大（地域ケア推進課長） 杉本光一郎（地域ケア推進課企画調整係長） 内田圭（地域ケア推進課企画調整係主任）
	関係者	山宮順子（川崎市多摩区社会福祉協議会地域課長）	
欠席委員		小川町子（多摩区食生活改善推進員連絡協議会） 楠静子（多摩区老人クラブ連合会）	
議　事		（１）第８期多摩区地域福祉計画素案について （２）第８期多摩区地域福祉計画補完ツール～地域のつながりガイド「多摩区でみつける　つながりのカタチ」～（素案）について	
傍聴人の数		０名	

配付資料	［配布資料］ 資料１…第８期多摩区地域福祉計画策定スケジュール 資料２…委員の御意見を踏まえた改善内容 ～御意見を計画にどう反映したか～ 資料３…第８期多摩区地域福祉計画素案について 資料４…第８期多摩区地域福祉計画補完ツール～地域のつながりガイド「多摩区でみつける つながりのカタチ」～（素案）について 参考資料１…名簿 参考資料２…多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱 参考資料３…多摩区支え合いのまちづくり推進会議について 参考資料４…令和８年度第２回多摩区支え合いのまちづくり推進会議会議録 参考資料５…第８期川崎市地域福祉計画の基本的な考え方について ［冊子資料］ 第７期多摩区地域福祉計画　冊子、概要版

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局（林課長）	次第１（開会）
	（会議録作成のため録音の承認）
佐藤区長	次第２（挨拶）
事務局（林課長）	・配布資料の確認 ・進行調整役を和委員にお願いしたい旨提案→承認
和委員	僭越ながら進めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。 それでは次第に従い議事を進行する。 議事（１）（２）について、事務局から説明をお願いする。
事務局（杉本係長）	次第３（議事） （１）第８期多摩区地域福祉計画素案について （２）第８期多摩区地域福祉計画補完ツール～地域のつながりガイド 「多摩区でみつける　つながりのカタチ」～（素案）について
	資料１、２、３、４の説明
和委員	資料４のうち、地域の取組事例が「調整中」となっている箇所を中心に、委員の皆様が普段行っている取組や、掲載に適した事例について御意見をいただきたい。特に、７ページの「伝える」、８ページの「つくる」、１１ページの「支える」に関する地域の取組について伺いたい。 また、前回会議の意見を踏まえ、計画素案及び補完ツールに丁寧な改善が図られており、良い素案が出来上がりつつあると感じる。とは言え、まだ素案の段階であり、資料２に示された前回意見の反映内容が、委員の意見の趣旨に沿っているかという点を含め、その他にも気付いた点や、より分かりやすくするための工夫について御意見をいただきたい。
永井委員	資料２の３ページ及び資料３の１０ページについて、イラストを用いて「多摩区の３つのつながり」を表現したことで、前回より分かりやすくなった。一方、「３つのつながり」が何を指しているのかは、現状の表現では分かりにくい。基本方針の文章自体は変更せず、それぞれを「地域と関わるきっかけをつくるつながり」「地域の活動を支えるつながり」「気づき、支え合うつながり」など、「～～つながり」という表現で示してはどうか。 また、「つながりを生み出し、広げ、支援につなげる」という記載は、行政等が支援につなげるという印象を受けるため、「支援につながる」とした方が良いのではないか。
和委員	計画は文字を中心に読み手へ伝えるものであることを考えると、重要な御指摘である。基本方針の文言は維持しつつ、図の部分に短い見出しや注釈を加えるなど、「３つのつながり」が何を示しているのか分かるようにすることは可能か。

発言者	発言要旨
事務局（杉本係長）	基本方針の文言自体を変更することは難しいが、「３つのつながり」と各基本方針が対応していることが伝わるよう、注釈等を加え、イラストが示す内容をより分かりやすく表現することは可能と考える。
和委員	計画について委員の皆様から御意見をいただく機会は、今回の会議が最後になるのか。
事務局（杉本係長）	資料１のとおり、今回の素案確定後、市民説明会及びパブリックコメントを実施する。その意見を踏まえた最終案について、令和９年２月１９日に予定している第４回会議で改めて御確認いただく。
和委員	次回会議の段階では大幅な修正は難しくなると思われるため、本日は細かな点でも構わないので、より良い内容とするための御意見をいただきたい。 続いて、資料４の７ページ「地域の情報や活動を伝える」に掲載する地域の取組について伺いたい。町内会・自治会が行う掲示板等の情報発信を一例として想定しているが、子育てや障害等の分野で、定期的に情報を発信している取組や、発信時の工夫があれば伺いたい。川村委員から、障害分野における情報発信の現状について、伺いたい。
川村委員	障害分野の法人等でも、定期的に広報紙等を発行している例はあると思う。ただし、それを地域の取組として位置付けることが適切かという点は整理が必要である。また、相談窓口やＳＮＳ等による情報発信を広げることで、相談や問い合わせが増えた場合の対応も必要となるため、情報発信の在り方は難しい面がある。自立支援協議会の委員にも確認した上で、改めて情報提供したい。
和委員	障害分野におけるＳＮＳ等を活用した情報発信がまだ十分でないのであれば、計画に今後進めていく取組として位置付けることも考えられる。また、既に実施している事例が確認できれば、補完ツールで紹介できると良い。
川村委員	他都市の事例では、若者への支援において、電話ではなくメールやＬＩＮＥ等を主な連絡手段とする例が増えている。児童分野を中心に、若者が利用しやすい手段へ移行している状況もあるため、その点も含めて情報収集したい。
和委員	情報の受け手に応じて、発信手段を変えていく視点が必要である。 続いて、眞壁委員から、子育て分野における情報発信の現状について伺いたい。
眞壁委員	子育て世帯は、紙のチラシを持ち帰る方が少なくなっており、スマートフォンで情報を確認することが一般的になっている。チラシに二次元コードがあれば、その場で読み込んで情報を取得するが、チラシ自体は持ち帰らない方も多い。各団体から有益なイベント情報等が多数寄せられるが、個別のチラシを置くだけでは情報をまとめて届けることが難しい。様々な情報を掲載できる、インターネット上の掲示板のような仕組みが発展すると良いのではないか。
和委員	現在行われている取組だけでなく、現場で感じている課題や、「今後このような仕組みがあると良い」という提案も、計画の中に記載することは可能か。

発言者	発言要旨
事務局（杉本係長）	資料４の３ページ及び４ページにあるデータや「地域を取り巻く環境の変化」の中で、情報発信をめぐる現状や課題に触れることは可能と考える。
和委員	最適な情報の届け方がまだ明確でないとしても、地域で必要性が認識されている課題として、分かりやすい形で掲載できると良い。
眞壁委員	これまで冊子で発行されていた「多摩区公園ＢＯＯＫ」が、今年度からウェブ版のみになったと聞いているが、公園は子ども自身が行き先を選ぶことも多い。実際に、子どもが冊子を見て、遊具や行ったことのない公園に興味を持ち、保護者に連れて行ってほしいと伝える例もある。情報発信では、スマートフォンを使う大人だけでなく、子どもを対象とする視点も必要である。地域子育て支援センター、こども文化センター等とも連携し、子どもが手に取れる情報発信の方法を検討してはどうか。子どもが興味を持つことで、保護者の地域参加にもつながると考える。具体的な方策があるわけではないが、今後の検討課題を計画に掲載することも意義があると考える。
和委員	ウェブ化には利点がある一方、子どもは紙媒体を手に取り、自分で調べることもある。「伝える」取組について、誰に向けた情報発信なのかを整理し、眞壁委員の御意見を反映できると良い。 続いて、資料４の８ページ「地域参加の機会をつくる」に掲載する地域の取組について伺いたい。
小山委員	子ども会の数は減っているが、地域で行われる行事に参加する子どもは増えていると感じる。先日、錦ヶ丘こども文化センターでお化け屋敷が開催された。申込書は紙媒体での提出が必要で、雨天にもかかわらず、多くの親子が参加した。段ボールや新聞紙等を使って会場を作り、親子で楽しめる取組となっていた。ハロウィンの行事でも、子どもだけでなく、保護者も仮装して参加している。子ども向けの取組を行うと、保護者も一緒に参加する。大規模な取組でなくても、地道に継続することで、参加者が少しずつ増えていくと考える。
和委員	子ども向けの取組が、保護者の参加にもつながる具体的な事例である。補完ツールへの掲載について、事務局から改めて相談させていただきたい。
坂本委員	こども文化センターでは、お化け屋敷、夏祭り、餅つき大会、映画会など、以前から様々な行事を行っており、子どもと一緒に保護者も多く参加している。また、地域によっては、明治大学と連携し、行事に参加した大学生が、その後もこども文化センターでボランティアとして関わるなど、新たなつながりが生まれている。 こども文化センターは行政施設ではあるが、運営協議会が設置されており、町内会・自治会、子ども会等、地域の様々な方が参加し、事業を共催している。運営協議会という形であれば、地域の取組として紹介できるのではないか。
和委員	運営協議会と連携した取組として、補完ツールに掲載できると良い。また、高齢化をネガティブに捉えるだけでなく、元気な高齢者がいかに地域で活躍するかという視点も重要である。老人クラブの取組も、地域参加の機会をつくる事例として掲載できれば良いと考える。大澤委員からも御意見を伺いたい。

発言者	発言要旨
大澤委員	自身も老人クラブの会員である。先日、多摩市民館において、老人クラブによる演芸大会が開催され、多くの高齢者が元気に歌や踊りを楽しんでいた。菅地区の老人クラブでは長寿祝賀会も行われており、沢山の方が元気に参加している。こうした取組も、掲載できれば良いと考える。
和委員	老人クラブの活動について、楠委員にも相談いただき、掲載を検討いただきたい。 続いて、資料４の１１ページ「人・団体・場を支える」に掲載する地域の取組について伺いたい。地域の取組としての「支える」はイメージしにくい面があるため、事務局で想定している事例があれば説明いただきたい。
事務局（杉本係長）	地域ケア推進課において、地域の方に委託している事業のため、地域の取組として整理することは難しい面もあるが、一例として、外遊び交流委員会では、公園等でプレーパーク等を実施したいグループに対し、物品の貸出しや人材の派遣等を行う仕組みがある。このように、物品を貸し出し、地域活動を支える取組で、地域の方が主体となって行っている事例があれば伺いたい。
坂本委員	町会会館を活動の場として提供している例は複数ある。例えば、民生委員児童委員による、高齢者を対象としたお茶飲み会等が町会会館で行われていると聞いている。町内会・自治会が場を提供することも、地域活動を支える取組として考えられるのではないか。
和委員	貴重な御意見に感謝する。島峯委員からも御意見を伺いたい。
島峯委員	地域活動の担い手も高齢化しており、活動を円滑に継続することが難しくなっている。先日、商店街ではラジオ体操を実施し、１日平均約５０名、延べ約２５０名が参加した。多摩区子育て支援パスポート事業とも連携し、パスポートのＰＲを行った。また、たまたま子育てまつりでは、じゃんけん大会を行い、家族を含め延べ約４００名が参加した。地域活動には様々な課題があり、事情により縮小せざるを得ない場合もあるが、動きを止めず、継続することが重要である。特に商店街は、活動を止めてしまうと地域の活力低下につながると感じている。計画及び補完ツールは内容が非常に充実していて良いと感じたが、この流れを止めず、活動を続けていくことが重要だと考える。
和委員	貴重な御意見に感謝する。櫛笥委員からも御意見を伺いたい。
櫛笥委員	資料３の１０ページについて、前回、「つながる」という言葉の違いが分かりにくいと指摘したところ、イラストで示していただき分かりやすくなった。更にブラッシュアップし、このページを見るだけで基本方針が理解できるようになると、素晴らしいものになると期待している。
和委員	永井委員の御意見とも重なる内容である。資料３の１０ページについて、計画全体の基本方針が一目で伝わるよう、引き続き工夫いただきたい。

発言者	発言要旨
浅谷委員	夏休みに、親子で手話を体験する福祉教育推進の取組に関わったが、取組の周知が課題だと感じた。町内会・自治会の回覧板や掲示板を通じて周知しているものの、学校を通じて紙のチラシを配布することが難しく、参加者が集まりにくい状況がある。そうした中、ある学校が保護者向けの情報発信ツールに案内を掲載したところ、その学校からの参加者が増えた。情報発信をめぐる状況が変化しているため、紙だけではなく、デジタルツールによる情報発信手段も想定して企画する必要があると感じた。
和委員	「伝える」に関する現場の実情を示す貴重な御意見である。また、「支える」に関しては、地域内の様々な協議会が、団体や活動を支えている事例を掲載することも考えられる。
永井委員	障害福祉施設から、利用者の親世代に関わる介護保険制度等について説明してほしいとの依頼を受け、地域包括支援センターが説明に出向いたことがある。その際、４０～５０代の障害のある方を対象に、食生活改善推進員が食生活の説明や料理教室等を行った事例を聞いた。専門職のグループが地域の施設の活動を支援している例は他にもあると考えられ、こうした取組も「支える」に該当するのではないか。
和委員	食生活改善推進員の取組等について、小川委員にも相談し、「支える」に関する地域の取組として掲載を検討いただきたい。
坂本委員	資料４の１２ページ及び関連資料に記載されている「生田中学生が語る会」は誤りであり、正しくは「中学生が語る会」である。「生田」を付けると、生田中学校のみの取組と受け取られるため、修正していただきたい。
和委員	正しい名称に修正いただきたい。委員の皆様の貴重な御意見に感謝する。 以上をもって議事を終了する。進行を事務局へお渡しする。
事務局（林課長）	和委員、議事の進行ありがとうございました。 次回の第４回会議は、令和９年２月１９日（金）午後１時３０分から開催を予定している。改めて委員の皆様へ通知を送付する。 閉会にあたり、地域みまもり支援センター所長の北川から御挨拶を申し上げる。
北川所長	長時間にわたり、活発な御意見をいただき感謝する。今後、市へ素案を提出するに当たり、本日いただいた御意見を踏まえてしっかりと内容を検討したい。特に、「つながる」「つなげる」「つなぐ」などの言葉については、誰が主体となるのかを意識しながら、適切な表現となるよう計画を作り上げていきたい。残る会議はあと１回となるが、引き続き御協力をお願いしたい。
事務局（林課長）	以上をもちまして令和８年度第３回多摩区支え合いのまちづくり推進会議を閉会いたします。ありがとうございました。